



弦楽四重奏コンサート復活開催のお知らせ

酒々井の春に響く宮廷の調べ ミレ カルテット

都心まで出掛けなくても一流の演奏家をここ酒々井町に招いて地元でクラシックをはじめとする高いレベルの演奏を楽しみ、自然と歴史に恵まれた地域に思いを深め、住民の交流の幅を広めようとの趣旨で NPO 法人 輝け酒々井まちづくり研究会が主催する町民交流文化事業は、第 6 回目を迎えるに至っています。

今年は折しも日本で一番古い町酒々井町の町制施行 130 周年に当たり、音楽の世界では楽聖ベートーヴェン生誕 250 年に当たる年でもありました。歴史の重みを想起させる莊重な音楽で記念の年を祝おうと、ベートーヴェンの弦楽四重奏の代表作「ラズモフスキー第一番」を中心に、新日本フィルハーモニーの主力メンバーを中心に編成されたミレ カルテットを招き、弦楽四重奏演奏会を企画しました。生憎、新型コロナウイルス対策で開催できなくなり延期を決断せざるを得なくなりました。ご迷惑をお掛けましたことを改めて深くお詫び申し上げます。

延期から 1 年を前にして、go-to-events の動きが始まり、地域に活気を取り戻す為にも音楽会復活を求める声が多くの方々から寄せられるようになってきました。コロナ禍は未だ去ってはおりませんが、音楽会の復活開催を検討しましたところ、新型コロナウイルス感染防止対策に万全を期すことで、ほぼ同様の内容で復活開催が実現できることとなりました。宮廷音楽として磨かれ輝いたヘンデル、ハイドンからベートーヴェンに至る弦楽四重奏全盛の時代を辿りながらの演奏に暫しコロナ禍を忘れ、宮廷文化の華やかさに浸って頂きたいと思っております。

130 年を経た酒々井町の今日在ることに感謝し、未永き息災を祈念し、ミレ カルテットが奏でる弦楽四重奏の奥深い莊重な響きが心に残る演奏会であることを願っております。(詳細は、ポスター、チラシでご確認ください。)



ミレ カルテット演奏会
令和3年3月28日(日)
於: プリミエール酒々井

酒々井町教育委員会「青少年おもてなしカレッジ」について

「青少年おもてなしカレッジ」を開講して 7 年になります。この講座は、東京オリンピックに合わせ、酒々井町の素晴らしい自然や歴史、文化を子供たちに学習してもらい、町を紹介するガイドを養成することを目的に開講しました。

この講座は、NPO 法人「全国生涯まちづくり協会」が文部省から事業委託を受け、酒々井町もこの事業に参画することになり、福留強理事長（聖徳大学名誉教授）の指導を受け発足しましたが、この事業は、3 年間の時限事業であったため平成 29 年に終了しました。しかし、教育委員会は、前述の趣旨に加え青少年の郷土愛の育成とふるさとづくりに寄与してくれる青少年育成のため継続することに決定しました。継続に当たっては、受講生や父兄の方々へのアンケート調査による意見を聞きながら今日に至っています。



講座で取り上げる主な内容は、本佐倉城の築城と特長、築城の時代的背景、曲輪の構成とその役割等、更に、江戸時代に成立した酒々井宿の町並みや町外歴史遺産等で、座学と現地訪問を行い学習しています。

講座の受講生は、増減は有るもの、年度を重ねる毎に、興味を持ち参加する子供が増えつつあります。現在、小学校



4 年生から中学 3 年生を対象に募集し、令和 2 年度の受講生は、15 名です。

講座の運営は、教育委員会の要請により実行委員会（5 人の委員と生涯学習課 1 名で構成）を設け、主管は生涯学習課です。受講生には年齢差があり、全員が興味を示してくれる教え方、学習意欲のベクトルの合わせ方等の難しさがありますが、楽しく受講できることを主眼にしています。なお、これまでに 98 名の受講者が町のイベントに参加し活躍しています。

最後に、父兄の方々に子供達が学んだことについて是非ヒヤリングして頂き、親子で酒々井の素晴らしさを学んで頂くことをお願い致します。また、令和 3 年度も本講座を開講する予定です。対象学年のお子様の参加をお持ちしています。

お知らせ 12 月 27 日 (日) 午前 9 時より、飯沼本家 本蔵 1 階で朝市が開催されます。また、芝生広場ではマグロ解体ショーも予定されています。コロナ対策で入場制限もあるようですが、マスク着用でのぞいてみてはいかがでしょうか。

江戸時代、酒々井宿の中心であった酒々井中宿と下宿の境に位置し、酒々井の不動様として繁盛したと伝えられています。佐倉五力寺の一つの古刹文殊寺の下寺でしたが、現在は真言宗吉祥寺末の無住寺となっています。もともとは東台（現中央台三丁目付近）にありましたが、元禄年中、佐倉城主戸田山城守の奥方が難病にかかり困っている時に、酒々井の不動尊に祈願すれば癒るという靈夢によって祈願をしたところ、たちまち平癒し、山城守が帰依して不動堂を現在地に建立寄進したとのことです。

本尊の不動明王坐像は江戸時代初期のころ江戸の仏師によって造像されました。木造の像高1.3m、寄せ木造りの大作で、江戸時代の様式がよく表現された力感のあふれている作であり、町指定文化財となっています。「古今佐倉



本 堂



勝藏院本尊 不動明王座像

真佐子」には、江戸の仏師が同時に依頼された武田信玄像の首と間違って取り付けた逸話が載っていますがその真偽はわかりません。

境内はもともと中央保育園等も敷地に含まれ840坪、赤塗りの仁王門、いちょうの大木が二本あるほかに、宝形造りの本堂、太子堂、庫裏、四国三十二か所供養塔、六地蔵、狛犬、灯籠などが揃っていて、歴史の古さを物語っています。

この不動明王は、人々が皆成田不動を信仰するため、こちらの不動にも参拝客を引き付けようと「成田の姉不動」として造ったといわれていますが参拝客は増えませんでした。

散歩がてら、是非訪れてみてはいかがですか。



仁王像

自治会紹介 その6 酒々井区自治会

旧51号線沿いに酒々井、上宿、下宿、新堀、横町・下台の5地区から構成される地域で所属軒数は約800軒、全体が酒々井区と呼ばれていて、自治会や町会の呼称を付けずに、これがそのまま組織名になっている。

旧道に沿って八坂神社、麻賀多神社、酒の井牌など酒々井の歴史を物語る名跡が点在する地域で住民活動の歴史も古くと言われている地域の自治会であり、多彩な活動内容を期待して訪れたが、現在は前記の5地区を統括する実務が主な活動とのこと。

組織は、5地区から選出された役員から区長、副区長、会計、書記等が選出されていて、区長は毎年前任の副区長が引き継ぐことが決められている。

酒々井町消防団の第一分団は酒々井区所属で、区費一戸当たり年額2千円の半額は分団の活動費用に充てられている。消防団維持活動以外では地域全体の街灯の維持や清掃活動などが主な区実務であって、回覧の配布は地区長が兼務する行政連絡員が担当している。



酒々井町消防団第一分団機材施設

酒々井区に残る伝統の住民活動は5地区に置かれている集会場と共に地区レベルで維持発展が図られていると見られるが、酒々井区としての関与対象とはなっていない。

住民の高齢化が進む中で災害の多発傾向や新型コロナウイルスがもたらす新しい生活形態に対応して自治会活動の重要性は従来以上に増すと見られており、5地区の連合体とも言える酒々井区がどのように存在を高めて行くか、酒々井町の在り方にも関連して、酒々井町の歴史を担ってきた地域のリーダー的役割を期待したい。



下宿青年館（地区集会場）の全景

編集後記

令和2年も、JR酒々井駅前のイルミネーションが点灯される時期となりました。年初には、新型コロナウイルスがこれ程大事になるとは考えてもいませんでしたし、MARS、SARSと同様に水際で防げるのではと期待していました。第3波の終息も現時点では見えない状況ですが、ワクチンの開発も進んでいるようで、来年に向けて少しは光が見えてきたのではと思いたい今日この頃です。

令和3年が皆様にとって希望ある良い年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。

